『高齢者の福祉と介護 “暮らしの木”』

暮らしを支えるために

○行政の体制整備

- ・市の保健、福祉、医療等関係課の情報共有を進める
- ・福祉保健全体と他部署を連携させる
- ・社協の存在、役割を行政が再認識し、強化する・地域福祉計画の早期策定
- ・自助、共助、公助の精神を住民に伝える

○相談

- ・地域包括支援センターの周知、機能強化
- ・地域相談センターの周知、連携
- ・権利擁護、成年後見制度の周知、相談体制充実が必要

○住まい

- ・高齢者が住みやすい市営住宅

生き生きと健康に暮らすために

○介護予防

- ・介護予防周知啓発の推進が必要
- ・介護予防事業の充実
- ・地域デイの充実とボランティアの確保
- ・願寿館、かりゆし健康クラブ、ふくらしゃ館の周知
- ・予防の大切さの周知、予防について住民と行政が一体となって推進することが大切
- ・入れ歯、口腔ケアが大切

○介護

- ・サービスの適正利用について進める
- ・介護給付分析が必要
- ・地域密着型サービスを各圏域に整備
- ・ニーズに応じた福祉サービスの提供
- ・福祉サービス、介護サービスについての周知
- ・家族介護者の支援

○健康増進

- ・生活習慣病予防の周知啓発
- ・特定健診、特定保健指導を推進
- ・「健康いとまん21」の推進
- ・食育の推進
- ・中高年が利用できる運動施設の充実強化を図り、早期に介護予防に取り組む

地域の力をつける

○地域福祉活動の推進

- ・地域の状況に応じた地域福祉活動の推進
- ・圏域ごとの地域ニーズと課題の把握
- ・地域ネットワークづくり（地域、行政、社協との協働）
- ・コミュニティソーシャルワーカーの配置
- ・地域ボランティアの育成

楽しく明るく暮らすために

○集いの場

- ・公民館を開放し、地域の人が集える場所にする
- ・地域資源を活用した「ふれあいサロン」づくり
- ・社会資源を活用した集いの場、高齢者の拠点づくりが必要
- ・地域デイサービスを中心とした集いの拡充

○生きがいづくり

- ・老人クラブの活性化を図る
- ・前期高齢者や高齢者を支える世代が生きがい、地域活動に参加する環境づくりが必要
- ・シルバー人材センターの活用促進
- ・地域デイ、自治会、願寿館、ふくらしゃ館等での世代間交流
- ・文化、趣味、サークル活動の充実

○移動・交通手段

- ・地域での日常生活のために、市内の移動・交通の充実は大切
- ・老人クラブ、地域デイ、かりゆし健康クラブ等への移動手段の確保
- ・高齢者の移動負担をなくすため公共交通機関の充実が必要

安心して住み続けるために

○見守り

- ・地域での見守り体制の強化が必要
- ・緊急通報システムサービスの充実
- ・地域のつながりによる声かけ、助け合いが大切
- ・関係機関の連携

○ボランティア

- ・ボランティアの養成と活動支援の強化
- ・傾聴ボランティアの登録者の有効活動
- ・ボランティアをして欲しい人になりたい人をつないでいく
- ・ボランティアに参加する人が増えるように取り組む

○認知症高齢者への対応

- ・認知症に対する住民の理解は大切
- ・認知症についての情報共有、本人、家族の支援体制づくり
- ・認知症家族介護者への支援が必要

○災害時の対応

- ・避難所の整備と周知、避難訓練が必要
- ・災害時要援護者への支援の仕方を構築する必要がある

現在の糸満市の課題

高齢者を取り巻く状況

- ・高齢社会の到来
- ・後期高齢者の占める割合が上昇
- ・独居老人が多い
- ・介護給付費が高い
- ・老人医療費が高い
- ・デイサービスの利用激増
- ・介護保険料の負担は限界
- ・老人の集う場所が少ない
- ・高齢者の利用しやすい交通手段がない

策定委員会での意見

- ・移動、交通手段の不足
- ・高齢者の生きがいづくりの不足
- ・地域でのつながりの不足
- ・老人クラブの活動停滞

アンケート調査結果より

- ・経済的に苦しい
- ・地域活動に参加していない
- ・地域包括支援センターと地域相談センターの周知不足
- ・願寿館の周知不足
- ・高血圧の人が多い
- ・要介護の原因は、男性で脳血管疾患、女性で転倒骨折が多い
- ・「ひとり暮らし」と「配偶者以外と二人暮らし」の高齢者で、要介護になるリスクが高い